

シリーズ 学校最前線

大阪府立東百舌鳥高等学校 「総合的な探究の時間」の授業を始める

大阪府立東百舌鳥高等学校

稲川孝司



一 はじめに

大阪府立東百舌鳥高等学校（以下本校）では平成三十一年四月から「総合的な探究の授業」を始めます。これは平成三十一年四月から新高等学校学習指導要領の移行期間となることに伴い、実施するものです。

今回の学習指導要領の改訂で、今までの「総合的な学習の時間」が高等学校においては「総合的な探究の学習」と名称が変更になっており、平成三十年から国立教育政策研究所の二年間の「総合的な学習の時間」研究指定校として本校が「学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法および評価方法の工夫改善に関する実践研究」を実施していることもあり、平成

三十一年から「総合的な探究の時間」の授業を行うことになりました。

ここでは、小中学校での名称は「総合的な学習の時間」のままであるのに対し、高等学校での名称が「総合的な探究の時間」に変更されたことについて、その違いについて説明し、その後本校における「総合的な探究の時間」の授業の内容について述べてみます。

二 総合的な探究の時間とは

「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の「改訂の要点」に、経緯も含めて詳しく書かれていますので、以下にその内容を引用します。

・高等学校においては、名称を「総合的な探究の時間」に変更

研究主題は「学びに向かう探究学習の研究・開発及び評価—ピアマインドセットを持ち、SDGsに取り組む探究学習—」としました。

グローバル化が進展し、社会や生活が大きく変わっていく「超スマート社会」を生徒たちが自律的に生き抜くためには、「キャリア発達を促す進路実現」や「知識のみにとらわれない学びの実現」に課題を感じており、国連が採択した「持続可能な開発目標」であるSDGsを基に、生徒が興味ある分野を深く調べ、仮説を立て検証し、意見としてまとめて表現する学習活動を通じて、SDGsを自分の課題として捉え、目標達成のために他者と協働し、自己の進路をキャリアとして捉えられる生徒集団の育成を目指すことを授業の目標にしました。

四 一年目の研究活動

外務省の「高校講座」で、現役外交官による国際理解や外交官の職務についての講演会を行

い、オリムピックで海外からのお客さんが困りそうなことを、設定した五つのテーマに関連する様々な問題のなかから、グループで解決するために取り組むものを選び、「問題提起・問題展開・解決提案・まとめ」の役割分担をして探究を進め、クラス発表と各クラス代表による全体発表会でプレゼンテーションを行いました。

一月には大阪府立大学の留学生を各学級に招き、日本での生活に困ったことやその解決策等について交流を深め、二月には探究学習に向けてSDGsへの理解を深めるワークショップを行いました。また、卒業生講演会・大学見学とそのレポート発表を通して、自分の興味・関心のある分野や「なりたい自分」を見つけ、実現のための課題を発見し、追究する態度を養う授業を行いました。

一年目の研究の課題としては、実社会や実生活と自己の在り方生き方を考えながら自律的に課題を立て探究に取り組む側面が

し、小・中学校における総合的な学習の時間の取組を基盤とした上で、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見いだし探究する力を育成するようにした。（中略）

・教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校が総合的な探究の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを示した。

（波線は筆者）
なお、高等学校学習指導要領

弱かったので、キャリア教育を「探究」の切り口で見直して、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すことにしました。

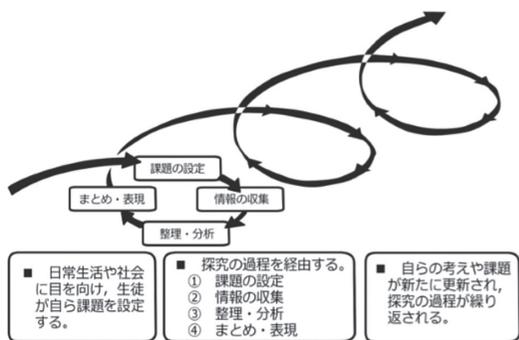
また、探究的な学習に対する教員全体の理解が十分とは言えないので、全体計画、関連単元配列表、単元構想図及び評価・支援計画表を作成し、各教科等で育成する資質・能力を相互で関連付け、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指すことにしました。

五 二年目の研究活動

国研の一年目の研究成果を受けて、平成三十一年度入学生から新学習指導要領の「総合的な探究の時間」の授業を開始し、国研の研究指定校として授業の研究開発を推進していくことにしています。授業の目標としては、冷静な目で客観的に物事を見つめ考えることのできる力、

熱意をもって主体的、協働的に物事に取り組める力、身の周り

解説「総合的な探究の時間」編の第二節に「探究における生徒の学習の姿」という図があり、課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、まとめ表現する探究のプロセスを、スパイラルのように繰り返して実施していくことが求められています。



探究における生徒の学習の姿

三 東百舌鳥高校の研究主題

本校では国研の研究指定校として「総合的な学習の時間」の研究・実践を行ってきました。

や社会、世界の課題を見つけることのできる課題発見力、これまでになかったものを考え、生み出す力、などの育成を目指しています。

また、本校では二年次から「文系アドバンス、理系、看護医療、情報デザイン、文系一般」と五つのコースから一つを選択するようになっているので、二年目の研究活動としては「関心領域を掘り下げる」として「生き方としてのピアマインドセットのあり方」をテーマとして、授業を行うことを計画しています。

本研究を進めるにあたり、生徒の評価をどのように行うかも重要な研究内容であり、教員全体で観点別評価を行い、「ピアマインドセット」や「学びに向かう力」などの評価規準を作り、これらの力がどの程度身についたかの評価を行い、評価規準の妥当性についても検討することにしています。